

イルミで市民元気に

茂原の東洋ケミカル

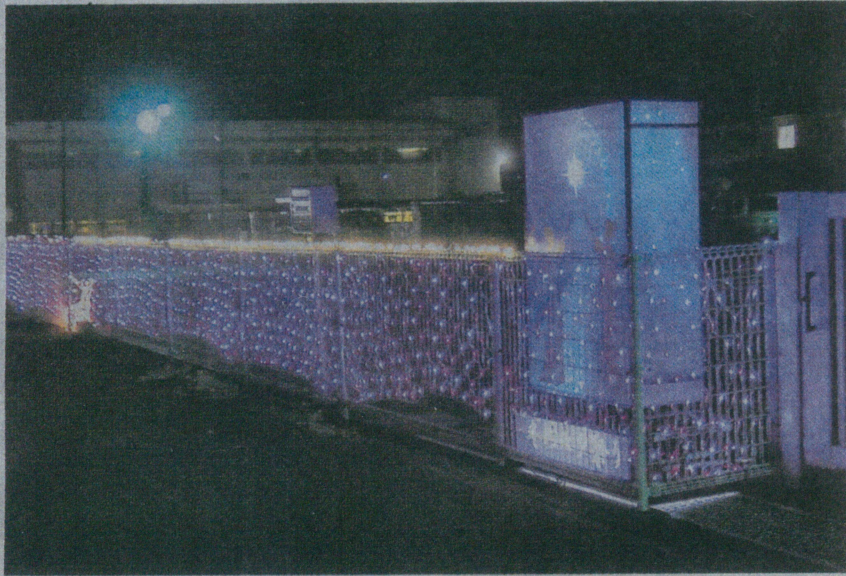
全長50メートル、天の川イメージ

東洋ケミカルエンジニアリング(佐々木勝彦社長)が、茂原市東郷の関東事業所にイルミネーションを設置した。金網仁所長が「コロナに負けず、少しでも茂原市民を元気づけたい」との思いで企画。全長50メートル、高さ約1メートルのフェンスが3500個のLEDライトで彩られている。

今年は新型コロナウイルスの影響で2月上旬に予定されていた同市の恒例イベント「冬の七夕まつり」が中止になった。同まつりは水上にイルミネーションで天の川を演出するのが特徴。地元企業が市役所周辺の飾りに協力している。

同社も毎年、参加している。今回の飾りも昨年使った電飾を活用。女性社員が

統合地方版



中心になり、仕事の合間に点滅するフェンスが天の川飾り付けた。柔らかな光が連想させ、門の横には織

天の川をイメージしたイルミネーション＝茂原市

り姫、ひこ星をデザインしたあんどん型のパネルを設置した。

場所は三井化学茂原分工場正門近くの交通量の多い県道沿い。「車から見られるので、心が和んでくれたらうれしい」と金網所長。佐々木社長は「地元の皆さまに希望の明かりを」とのメッセージを寄せ

ている。

午後5時から8時ごろまで点灯。期間はホワイトデーの3月14日まで。